

「音響」の戦後復興を担い、大崎の地で 日本製スピーカーブランドの歴史を紡いだ『アシダボックス』

過去から現在、未来へと受け継がれていく「ふるさと大崎」のDNA（原風景）を訪ねる『おさき今昔物語』。

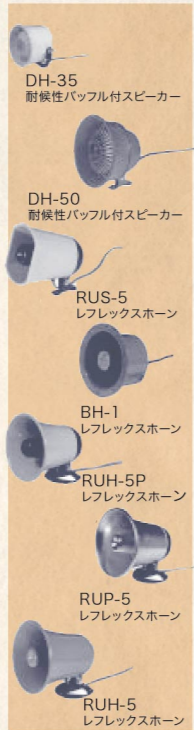
その第二十四話は、終戦前夜の混沌の時代に、国産スピーカーの開発に向けて邁進した地元企業「アシダ音響株式会社」の話。

ものづくりの地、大崎に根を下ろして広げたスピーカーブランド「アシダボックス」の名は、「音響」の分野から戦後日本の技術復興を担って歩んだ企業の、映えある代名詞ともなっています。



History これまでの歩み

- 昭和17年 柳川春雄が、米国マグナボックス社の極東総代理店アシダカンパニーの跡を譲り受け、スピーカーの国産化を企図、新橋駅前堤ビルに個人企業東京拡声器研究所を創立、国産スピーカーの製造を開始する
- 昭和18年 商標をアシダボックス(ASHIDAVOX)とする
- 昭和20年 5月、戦災で事務所、工場、倉庫が全焼する
- 昭和21年 目黒区中根町に工場を移転し生産を再開する
- 昭和22年 品川区大崎の現在地に本社工場を設けて移転する
- 昭和23年 パーマネントスピーカー専門の分工場を本社に近接して建設
- 昭和25年 法人組織に改組、アシダ音響株式会社を設立し、柳川春雄が代表取締役社長に就任する
- 昭和44年 口径13cmのホーンスピーカー（道路交差点の盲人用スピーカーRUH-5）を開発
- 昭和48年 宮城県石巻市に東北アシダ音響株式会社設立。ここを生産拠点として生産拡充をはかる
- 昭和59年 柳川譲が代表取締役社長に就任（柳川春雄は取締役会長に）
- 昭和61年 鉄道車両用電子ホーン（RUH-107W）を開発する
- 昭和64年 本社ビルを新築する
- 平成3年 東北アシダ音響株式会社の本社工場を新築する
- 平成6年 中国での委託生産を開始する
- 平成16年 ISO14001の認証を取得する
- 平成17年 ISO9001の認証を取得する
- 平成27年 柳川久が代表取締役社長に就任する
- 平成29年 Amazonで、アシダ音響オンラインショップを開設する
- 平成30年 夏ごろより、ASHIDAVOXブランドのオーディオ用イヤホン、カメラ用ステレオマイクホン販売を予定



昭和20年代の工場製造ライン



昭和30年頃の大崎工場製造ライン



アシダボックス開発の原点、日本を席巻したアメリカ製「マグナボックス・スピーカー」



富士山頂の「アシダボックススピーカー」



対寒、耐侯など、タフな環境での信頼性が求められる富士山測候所に採用



大崎駅西口交差点で活躍する盲人用信号機スピーカ

昭和27年のラジオ関係業界誌広告

待望の...
6.5吋新型発売!!

ラジオ東京 JOKR P1で好転率 42%でもびりつかぬ
技術研究室 然も倍率は他廠
毎月第一土曜日夜9時 午後5時45分 スタイル万歳

アシダボックス 高 声 器

大崎で70有余年。ものづくりのまちの発展を支え続ける中核企業「アシダ音響株式会社」

大崎駅西口の居木神社の横手に、本社事務所と資材倉庫を構える現在の「アシダ音響株式会社」。これまで、日本製スピーカーブランドの歴史と併せて、ものづくりのまち大崎発展の歴史をも紡いできた、地元有数のプロパー企業として躍進中です。当社を率いる現在のリーダーは、創業者・柳川春雄氏の志を継ぐ三代目社長の柳川久氏。自社技術の開発はもとより、新しい大崎のまちの魅力開発にも尽力、多くの地域催事を積極的にサポートしています。『良いまちづくりが、企業と技術をも育てる』ひとつの証が、ここにはあります。



創業者 柳川 春雄氏

アシダボックスブランドのスピーカーを語るのも身近な例は、全国の道路交差点に設けられた盲人用スピーカー。あの「ピヨ、ピヨ」と鳴る信号機の音響は昭和44年に開発された高性能ホーンスピーカー。この他にも、富士山測候所に設置された緊急警報用スピーカーや、鉄道車両用電子ホーンも、安全・安心のインフラ・スピーカーとして「アシダボックス」の高信頼性を広く全国に伝えていきます。さらにステレオユニット用スピーカーや今年販売予定のイヤホンも加えて、身近なオーディオ分野にも「アシダ」のネームバリューが浸透中。人と社会を豊かにする企業の歴史と未来が、ここ大崎から始まっています。

戦時下にも、国産スピーカーの開発へ邁進

日本がやがて敗戦へと突き進んでいく昭和17年。音響先進国アメリカのマグナボックス社極東総代理店「アシダカンパニー」から業務を引き継いだ柳川春雄氏にとって、この時から大きな試練と前進の歴史が始まることとなります。敵国「日本」への「マグナボックス」製品供給がストップ、企業の生き残りをかけた独自生産の道が強いられました。やがて

音響技術の分野では、まだ「原始時代」でもあった戦前の日本。スピーカー製造に関しても、そのほとんどを先進国アメリカに頼るといった当時の実情にあって、果敢に日本製スピーカーの誕生を目指して邁進したのが「アシダボックス」生みの親、柳川春雄氏。その後、ものづくりの地、大崎での多くの製品開発を通じて、人と社会の要望に応えた貴重な技術貢献を果たしていきます。

ピヨ、ピヨ、と鳴る盲人用交通信号スピーカーは、ここから